

第6学年1組国語科学習指導案

平成26年11月10日(月)

男子11名 女子9名 計20名

米沢市立興譲小学校 仲山加代子

1. 単元名

わたしたち米沢の宝 国宝：「上杉本洛中洛外図屏風」のすばらしさを伝えよう

(「鳥獣戯画」を読む・「この絵、わたしはこう見る」)

2. 単元目標

- (1) 『「鳥獣戯画」を読む』に関心をもって読み、洛中洛外図から読み取ったこと、感じたことが伝わるように書こうとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 『「鳥獣戯画」を読む』を読んで筆者のものの見方や感じ方について考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすることができる。(読むこと)
- (3) 「洛中洛外図屏風」を見て読み取ったこと、感じたことを文章全体の表現や構成の効果を考えて文章に書くことができる。(書くこと)
- (4) 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解して、文章を読んだり書いたりすることができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3. 教材について

本単元では、「上杉本洛中洛外図」を鑑賞して、自分が読み取ったことやすばらしいと感じたことを伝えるための文章を書く活動を取り上げる。活動を通して、自分の絵の見方をよりよく伝えるために、絵と文章を対比させながら絵のどの部分についてどのように感じているかという根拠と感想を区別して書くこと、書き出しや文末、構成などの効果を考えながら書くことを指導する。

教材文『「鳥獣戯画」を読む』は、「鳥獣戯画」の「絵巻物」としての文化的価値やそれを守り伝え続けてきた祖先の尊さ、さらに「絵」としての描写力や発想の豊さに、筆者が深い感銘を受けたことがよく伝わってくる文章である。それは、文章表現の工夫によるところが大きい。書き出しや文末の表現によって絵の躍動感が伝わってくるし、絵のすばらしさがいろいろな言葉で評価されている。読者を惹きつけ、絵巻物の特徴をいかした構成の工夫もなされている。それらの効果を読み取り、身近な国宝「上杉本洛中洛外図」のすばらしさを分かりやすく友達につたえるための紹介文づくりに活用できるよう指導する。

4. 児童について

自分の考えを広げたり深めたりする読み方に関しては、6年生で説明文の文章と対話しながら、自分の考えをもって読む学習をした。筆者の意図をとらえて、自分の考えをまとめることができた。

また、説明的な文章を書くことに関しては、5年生で表やグラフを引用して根拠を示しながら、自分の考えを述べた。資料のどの部分を根拠とするのか示しながら自分の考えを説明することができた。さらに、6年生では平和についての意見を、表現の効果を考えながら書いている。一人ひとりの文章表現が類似していて、よりよく伝えるための工夫が認められる表現が少なかった。

5. 指導にあたって

《学習指導要領との関連》

「C 読むこと」

オ 本や文章を読んで考えたことを発表し合い、自分の考えを広げたり深めたりすること。

「B 書くこと」

オ 表現の効果などについて確かめたり工夫したりすること。

《言語活動例》

「C 読むこと」

イ 自分の課題を解決するために、意見を述べた文章や解説の文章などを利用すること。

「B 書くこと」

ウ 物事のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。

《単元を貫く言語活動の工夫》

(1) つけたい力に応じた言語活動の設定

本単元では、『わたしたち米沢の宝 国宝：「上杉本洛中洛外図屏風」のすばらしさを伝えよう』と題して、「上杉本洛中洛外図」の好きな部分について自分が読み取ったことや感じたことを6年2組の友達に紹介する文章を書き、絵に添えて紹介する活動を設定する。

「上杉本洛中洛外図屏風」には、室町時代の京都全体の町並みの鳥瞰図の中に人々の暮らしが点在して描かれている。児童の読み取りやすさを考慮して、人々の暮らしを描いている場面から一か所選ばせる。絵の色彩の豊かさや細部にわたる詳しい描写、人物等の丁寧な書き分けに気づかせたい。

教材文『「鳥獣戯画」を読む』から、対象とする絵の見方や、自分が絵から読み取ったことや感じたことをよりよく伝える文章表現の仕方を学習する。そして、それを自分の文章にいかすことによって、自分の考えや思いをより適切な言葉で表現する経験をさせるとともに、工夫して書くことの楽しさを味わわせたい。

(2) 単元展開の工夫

学んだことを実際に活用する振り返りの活動を確保すること、文章の書き方をスモールステップで指導することができるようにするため、「入れ子構造」にする。二次において、『「鳥獣戯画」を読む』を読み取る学習と「洛中洛外図」について自分が感じたことを表現する学習を、絵を見る視点ごとに1単位時間に組み合わせて進めていく。

(3) 「洛中洛外図屏風」に親しみをもたせる手立て

一人ひとりに、米沢市上杉博物館発行のパンフレットを持たせ、じっくりと鑑賞できるようにする。また、「洛中洛外図」を見て何を書けばよいか戸惑う児童が少なからずいると予想されるので、その支援として、「上杉本洛中洛外図屏風」と関連の展示を米沢市上杉博物館に見学に行く。歴史的背景や価値などの基礎的な知識を得るとともに、実物のもつ魅力を肌で感じさせることによって、よりよく伝えようとする意欲をもたせたい。また、図の解説や図をアニメーション風にアレンジした展示があり、

児童の図の見方や読み取りの参考にさせる。

6. 単元の指導と評価の計画

次	時	学習活動	【評価の観点】 評価規準 (評価方法)
1	1	- 教材文を読み、「上杉本洛中洛外図屏風」を紹介する文章を書くことを知る。 - 学習の計画を立てる。	【関】絵を紹介する文章を書くことに関心を持ち、「洛中洛外図」を鑑賞している。(発言、絵を鑑賞する態度)
2	2	教材文を読み、筆者の絵や絵巻物の見方や感じ方について話し合い、感想を書く。	【読】筆者のものの見方や感じ方について自分の見方と比べながら感想を述べている。(発言、ノート)
	3	- 教材文の構成を読み取り、その効果について話し合う。 - 紹介文の構成を決める。	【読】筆者が自分の見方を伝えるためにした構成の工夫とその効果を読み取っている。(発言、ノート) 【伝】文章の構成を理解している。(発言、教科書、ノート)
	4	「洛中洛外図」から紹介する部分を決め、選んだ理由と「何が」「どのように」描かれているかを見つけて書く。	【書】紹介する絵について、選んだ理由と「何が」「どのように」描かれているかを見つけて書くことができる。(ワークシート)
	5	①②段落から絵の中心部分について場面の様子や作者の描写力を紹介している表現の特徴を見つけ、その効果について話し合う。 - 選んだ絵の中心部分について、教材文を参考にし紹介する文章を書く。	【読】筆者が工夫している表現(書き出しの工夫、体言止め)を見つけ、その効果を読み取っている。(教科書に引いた線、発言) 【書】教材文を参考に、書き出しを工夫したり、体言止めを用いたりしながら、注目してほしい描写を取り上げて文章にまとめている。(ワークシート)
	6	⑤⑥段落から絵の細部に着目した表現の特徴を見つけ、その効果について話し合う。 - 選んだ絵の中心以外の部分について、教材文を参考にして紹介する文章を書く。	【読】筆者が工夫している表現(語りかけ、自問自答)を見つけ、その効果を読み取っている。(教科書に引いた線、発言) 【書】教材文を参考に、語りかけるような表現や自問自答しているような表現を用いて、絵の細部に着目し、自分のイメージを広げながら、注目してほしい描写を取り上げて文章にまとめている。(ワークシート)
	7	③④⑦⑧⑨段落で絵巻物の価値について筆者がどのように紹介し、評価しているか話し合う。 - 洛中洛外図屏風の価値について自分なりに考え、教材文を参考にして書く。	【読】筆者が工夫している表現を見つけ、その効果を読み取っている。(発言、ノート) 【書】教材文の絵巻物の紹介の仕方を参考にして洛中洛外図屏風の紹介と価値を文章にまとめている。(ワークシート)
	8	- 表現の効果を考えながら、推敲する。 - 清書する。	【書】自分の見方を伝えるために、表現や構成の効果を考えながら、文章を書いている。(ワークシート、文章の添削) 【伝】文や文章にはいろいろな構成があることを理解して文章を書いている。(ワークシート、文章の添削)
3	9	表現の仕方やものの見方に着目して読み合い、感想を交流する。 (時間外)6年2組の友達3人以上に読み聞かせ、感想をもらう。	【書】友達の書いた文章を読んで、表現のしかたに着目して感想を書いている。(鑑賞メモ、発言) 【関】筆者のものの見方が書かれた部分を見つけている。(鑑賞メモ、発言)

7. 本時の指導 (第二次 5 / 9 教時目)

(1) 目標

- ・筆者が工夫している表現（書き出しの工夫、体言止め）を見つけ、その効果を読み取ることができる。
- ・教材文を参考に、書き出しを工夫したり、体言止めを用いたりしながら、注目してほしい描写を取り上げて文章にまとめることができる。

(2) 指導過程

学習活動、○主な発問、・期待する反応	・指導上の留意点、【】評価（方法）
1. 本時の学習活動を確認する。	・本時に書くのは、紹介文の「はじめ」のパーツ（一番注目してほしい部分の紹介）であること、参考にするのは教材文の①②③④段落であることを確認する。
高畑さんの文章を参考にして、絵の中心部分のすばらしさが伝わるように紹介文を書こう。	
2. 『「鳥獣戯画」を読む』の①②段落の表現の工夫を読み取る。 ○①②段落は絵のどの部分を紹介していますか。 ・相撲をとっている蛙と兔。 ○①②段落で特徴的な表現は、どこでしょう。 ・実況中継風の文章で始まっている。 ・文末が体言止めになっている。 ○「はっけよい、のこった。」という書き出しには、どのような効果がありますか。 ・読者の興味をひく。 ・漫画のように登場人物が会話をしているようでおもしろい。 ○文末を体言止めにするすることで、どのような効果がありますか。 ・読者が目の前で見てるように感じる。 ・速く動いているように感じる。 ・リズム感が出て読みやすい。(15分)	・教材文①②段落を全員で朗読する。 ・デジタル教科書の挿絵を拡大して、提示する。 ・本文を掲示し、実況中継風の表現と体言止めを探してサイドラインを引かせる。各自の教科書にもサイドラインを引かせる。 ・書き出しと体言止めの他の表現を特徴と指摘する考えも認めていく。
3. 自分が選んだ絵の中心について紹介する文章を、教材文を参考にして書く。 ○会話文で書き出し、文章の中に体言止めを用いて、選んだ絵の中心部分を紹介する文章を書きましょう。	【読】筆者が工夫している表現（書き出しの工夫、体言止め）を見つけ、その効果を読み取ることができる。(教科書に引いた線、発言) ・内容、構成、字数の参考にさせるため、例文をTV画面に映し出し、説明する。

しっ、音をたてるな。川原で、三人の鷹匠たちが忍び足をしている。どうやら獲物を見つけたらしい。先頭の鷹匠の左腕にとまっているのは、白い鷹。右手の笠で身をかくしている。しまった、感づかれた。 三人とも腰を低くした姿勢。慎重に歩いているのがよく分かる。それでも、少しずつ違う動きで描かれている。そればかりではない。着物の模様、布のしわ、顔つきまでも。実に細かい描写。一人一人をしっかりと描き分けている。 ○書いた文章を班で読み合い、絵のすばらしさがよく伝わる表現だと感じたところを伝えましょう。 (27分)	一段落目…書き出しを会話文にする。実況中継風に書く。 二段落目…「何が」「どのように」描かれているか説明する。 250字程度。 ・前時に、選んだ理由や「何が」「どのように」描かれているか調べたワークシートを活用しながら書かせる。 ・時間になったら書く活動を終えさせ、次の活動に移らせる。 ・文章の表現の仕方を友達に評価してもらうことによって、自分の表現の効果を確かめさせる。 【書】教材文を参考に、書き出しを工夫したり、体言止めを用いたりしながら、注目してほしい描写を取り上げて文章にまとめている。(ワークシート)
4. 本時の学習活動を自己評価する。 (1分)	・ノートの学習計画表の欄に本時の学習の自己評価を記号(◎○△)で書く。

第3学年1組 国語科学習指導案

期 日 平成26年12月12日(金)

場 所 3年生各教室

指導者 殿岡 聡

1 単元名 学んだことを、分かりやすく伝えよう 「話し合って決めよう」

2 単元目標

- (1) 話し合うことによって課題を解決したいという意欲をもち、役割を分担しながら、提案したり意見を整理したり、自分の考えを発言したりしようとしている。(国語への関心・意欲・態度)
- (2) 司会者や提案者、参加者などの役割に応じ、話し合いの目的や方向性をとらえて、互いの考えの共通点や相違点を整理して進行に沿って話し合うことができる。(話す・聞く能力)
- (3) 感想や意見を伝えたり、共有したりするために、適切な言葉で自分の考えを表すことが大切であることに気付くことができる。(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 教材について

本学級では、社会科の学習において「赤湯温泉ふるさと祭り」を題材とし、地域の方をゲストティーチャーとして招きながら、その活動内容や、祭りに関わる人々の願いについて深く学んできた。しかし、学年内の他三学級については、指導計画の関係上、これまでの授業の中で学んできた内容は限定的であり、現時点で本学級の児童のみが得られた情報も少ない。そこで本単元においては、自分たちが社会科の学習で学んだことを、他の学級の友だちに分かりやすく伝えるという目的を設定することで、単元を通してわかりやすい発表をめざした話し合いを展開することができるのではないかと考えた。

話し合い活動においては、司会などの役割をもって進めていくことで、話し合いの中心を捉えること、話題や進行に沿って一人一人が主体的に関わること、自分の考えとの共通点や相違点を明らかにして話したり聞いたりすることが重要になるが、本単元においては発表の内容や表現方法について主に小グループを中心としながら、目的意識、相手意識を明確にした意図的な話し合い活動を展開していきたいと考える。

4 児童について(男子13名、女子13名、合計26名)

- (1) 本学級の児童は、学習に対して大変意欲的で、授業中の発言も総じて活発に行っている。一方、自分の考えや理由などを明らかにして話すことに抵抗をもっている児童も少なくない。また、これまでも国語のみならず学級活動や総合的な学習の時間などを通して話し合い活動を継続してきたが、学級全体の話し合いにおける司会者や提案者といった役割や、班長などを中心としたグループでの話し合いに対して、積極的な児童とそうでない児童との差が大きい。
- (2) 2年時の「あったらいいな こんなもの」の学習では、事物の説明や発表の仕方を学び、「みんなできめよう」の学習においては、グループでの話し合いの仕方を学んでいる。また、3年時の「よい聞き手になろう」の学習では、話し手の報告や説明を受けて質問したり、感想を述べたりする活動を行った。しかし、司会者や提案者、参加者などの役割を明確にしなが学級全体や小グループで話し合ったり、話し合いの目的や方向性をとらえて、互いの考えの共通点や相違点を整理して意図的に話し合ったりする経験が十分であるとは言えない。
- (3) 3年時の「よい聞き手になろう」の学習では、日常生活の中から話題を決め、適切な言葉遣いで筋道を立てて話すと共に、話の中心を見つけながら聞き、質問したり感想を述べたりする学習に力を入れてきており、その学習を生かし、朝の会の時間を利用して1分間スピーチを継続してきた。しかし、話し手の報告や説明を聞く際、話の中心を捉えた質問や感想を交流するというよりは、声の大きさや速さ等がわかりやすさの基準になってしまう児童が多い。また、共感的に感想等を交流することで、考えが広がったり、深まったりすることを実感できている児童は多くはない。

5 指導にあたって

(1) 学習指導要領との関連

A 話すこと・聞くこと

- ア 関心のあることから話題を決め、必要な事柄について調べ、要点をメモすること。
- イ 相手や目的に応じて、理由や事例などを挙げながら筋道を立て、丁寧な言葉を用いるなど適切な言葉遣いで話すこと。
- ウ 相手を見たり、言葉の抑揚や強弱、間の取り方などに注意したりして話すこと。
- オ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。

(2) 言語活動例

- ア 出来事の説明や調査の報告をしたり、それらを聞いて意見を述べたりすること。
- イ 学級全体で話し合っって考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。

(3) 付けたい力を明確にした単元を貫く言語活動の工夫

本単元においては、「司会者」や「提案者」、「参加者」といった役割をお互いに果たしながら学級全体やグループで意図的に話し合い、聞き手にとって分かりやすい発表を行うことをねらっていく。そのために、以下のような観点で指導を継続していくとともに、それらを「上手に話し合うためのびき」としてまとめて提示し、子どもたちが常に手元に置いて学習を進められるよう配慮する。

①「司会者」の指導の視点

司会を行うためには、話し合い全体を見通して準備をし、限られた時間の中で話し合いを収束させることが求められる。そこで、司会役を務める児童に対し、以下のような手順を「話し合いを進めるためのわざ」として示し、効果的な話し合いが展開されるよう留意する。

- ・話し合う目的と順序を確認する。(目的を明確にすることで、一つに絞るのか、考え方を整理するのか、多様に考え方を列挙するのかなど、話し合いの方向性を確認する。)
- ・議題に沿った話し合いが限られた時間の中で効果的に行われるようにする。(これまでに出了意見を整理する。議題からそれた意見が出た場合は修正する。)
- ・参加者が主体的に話し合いに参加をし、より多くの多様な意見が出されるようにする。(みんなが意見を言えるよう意図的に指名したり順番を決めたりする。自分の考えをまとめたり、友だちと相談する時間を設定する。)
- ・話し合いをまとめる。(安易に多数決で決定することはせず、参加者の同意形成がなされる方向で話し合いを収束させる。)

②「参加者」の指導の視点

よりよい話し合いを成立させるためには、参加者が議題や進行に沿って、一人一人が主体的に関わること、自分の考えとの共通点や相違点を明らかにして話したり聞いたりすることも重要になる。そこで、話し合いに参加するための視点として以下の点を「話すためのわざ(聞くためのわざ)」として示し、効果的な話し合いが展開されるよう留意する。

- ・議題に沿って話す。(司会に指名されてから話す。自分の考えを先に言い、その後に考えた理由を言う。賛成、反対など自分の立場をはっきりさせて意見を言う。)
- ・自分の考えを分かりやすく伝える。(声の大きさや速さ、話し方を意識する。具体例を挙げたり、相手の理解度を確かめたりしながら話す。)
- ・よりよいまとめになるよう考える。(他の人の意見を取り入れて、よりよい案を考えて発表する)

なお、話し合い活動においては、「提案者」として以下のような視点も重要になるが、本単元においては、それらの役割も「司会者」の役割に含めて指導することとする。

- ・提案の具体性(何を、いつまで、どのようにするかなど)
- ・提案理由の明確さ(提案に従って実行する価値があるかなど)
- ・提案に基づいて実行する際の手順の明確さ(実行するための具体的方法など)
- ・提案に基づく行動の実現可能性(話し合いの参加者が実際に行動することが可能かなど)

また、特に学級全体での話し合いの際には、話し合った内容を記録する「書記」の役割も必要となる。本単元では、それら「司会者」、「提案者」、「黒板書記」「ノート書記」を含めて「司会グループ」として示し、日常的な話し合いの中でも、本単元での学びを生かしていけるよう配慮する。

6 単元の指導と評価の計画（10時間扱い 本時5／10）

時 数	◆主な学習活動	○主な留意点	<観点名> □評価規準(方法)
1	◆単元を通したためあてと、学習の流れについて確認する。	○ワークシートに整理しながら、目的意識と相手意識をしっかりと持たせる。	<関・意・態> □学習の見通しをもって積極的に考えを述べたり、話し合ったりしている。 (発表・話し合い)
2	「赤湯温泉ふるさと祭り」について学んだことを、他のクラスの人々に分かりやすく伝えよう。 ◆伝えたい内容と担当する学級によって6グループを編成する。 【内 容】 ・赤湯温泉暴れ獅子太鼓の活動について ・赤湯神輿振興会「龍桜会」の活動について 【担当学級】 ・3年2組、3組、4組	○伝えたい内容と担当する学級を選択させることによって、意欲を持って単元に取り組めるようにする。	<話・聞> □相手意識をもち、発表会の目的や条件、内容について考え、話している。 (発表・話し合い)
3	◆どんな内容を伝えたいか考えを出し合う。	○社会科の学習で学んだことを想起させ、他のクラスに伝えたい「事実」と「願い」は何かをグループ内で出し合う。	<関・意・態> □自分たちが学んだことや伝えたいことについて積極的に考えを述べたり、話し合ったりしている。 (発表・話し合い)
4	◆上手な話し合いの仕方を確認する。	○教科書P110の話し合いの様子をCDで聞き、上手な話し合い方について考える。 ○「上手に話し合うためのてびき」に沿って、主に「司会者」「参加者」の役割について確認する。	<話・聞> □よりよい話し合いの仕方に気づき、話し合いの際の役割について理解している。 (ワークシート)
5 本 時	◆グループごとに、伝えたい内容と方法について話し合う。	○「上手に話し合うためのてびき」を活用しながら、「司会者」「参加者」の役割を意識して話し合わせる。	<話・聞> □「司会者」「参加者」の役割を考えながら、友だちの考えとの共通点・相違点を意識し、進行に沿って話し合っている。 (発表・話し合い)
6 7	◆分担に従って担当ごとに発表メモや資料を作り、練習する。	○必要な材料を集めることができたか確認させる。 ○発表内容を分かりやすく簡潔に表すようにさせる。	<話・聞> □集めた内容を整理して、発表に向けて分かりやすい原稿や資料を作っている。 (ワークシート)

8 9	◆グループ内で発表の練習をする。 ◆リハーサルをし、おたがいの発表を見合う。	○話し方の工夫に気をつけて練習しながら、グループ内でアドバイスをし合えるようにする。 ○アドバイスを受けて、発表で大切な観点を再度意識させる。	<話・聞> □作成した原稿や資料を生かし、分かりやすく話している。(発表)
10	◆発表会を行う。 ◆発表の振り返りをする。	○聞き手にとって分かりやすい発表になるように、話す声の大きさ、速さ、話し方などに気を付けさせる。 ○同じクラスに行ったグループ同士でお互いのがんばりを認め合い、次の活動への意欲をさらに高める。	<関・意・態> □相手意識をもって、進んで発表に取り組んでいる。(発表) <話・聞> □メモをもとに、言葉遣いや話し方を工夫して分かりやすく発表している。(発表) <伝国> □話し方を工夫することで、考えたことや思ったことが伝わりやすくなることに気付いている。(ワークシート)

7 本時の指導

(1) 目標

司会者の役割や参加者の立場を意識しながら、他のクラスの友だちにとってわかりやすい発表にするための方法について、共通点や相違点を考えながら話し合うことができる。

(2) 指導課程

	学 習 活 動 ●主な発問や指示 ・児童の反応	○主な支援 □評価規準(方法)
導入	1 本時のめあてを知る。 ●めあてを読みましょう。	
5分	他のクラスみんなにとってわかりやすい発表にするための方法を、グループで話し合っ て決めよう。	
展開	2 話し合い活動の目的や約束を確認する。 ●ワークシートをもとに、話し合う目的と、話し合う時の約束を確認しましょう。	○予め本時の学習の流れを示し、見通しをもって活動に取り組ませる。 ○ワークシート参考に、話し合いの目的と、発表時間などの約束を確認する。
30分	3 テーマごとのグループで話し合っ、それぞれの内容ごとに発表の方法を決める。 ●司会者の進行で、他のクラスみんなにとってわかりやすい発表にするための方法を、話し合っ て決めましょう。	○「上手に話し合うためのてびき」をもとに、司会の進行で話し合いを進めさせる。 ○司会者の表示を準備し、司会の役割と話し合いの約束を意識させる。

展開 30分	司会：今日は、ぼくが司会をします。 まず、「2組暴れ獅子太鼓」グループでは、 どんな内容を説明するのかを決めます。そ の後、どんなふうに説明するかを話し合い ます。Aさんから順番に意見を言ってくだ さい。 A：わたしは、「暴れ獅子太鼓」の活動内容を発 表したいと思います。わけは、～からです。」 司会：次は、Bさんお願いします。 B：わたしもAさんと同じで、～を発表するの がいいと思います。 司会：Cさんはどうですか。 C：わたしはAさんたちに付け足して、「暴れ獅 子太鼓」に取り組んでいるみなさんの願い を発表するのがいいと思います。理由は、 ～からです。 司会：みんなから意見が出たので整理します。 「2組暴れ獅子太鼓」グループの発表する内 容は、～という考えと～という考えがでま したが、持ち時間の5分で発表できそうで すか。意見を出してください。 ⋮ 司会：話し合いの結果、「2組暴れ獅子太鼓グルー プ」の発表する内容は～と、～と、～に決 まりました。 次は、～の発表方法を話し合います。 ⋮	○具体的に何を説明するか、発表時間5 分間におさまるよう、伝えたい内容を しぼらせる。 ○話し合う過程で、メモを取らせたり、 決まった事柄を書かせたりするように する。 ○机間指導で、それぞれのグループの話 し合いの状況をチェックして助言を行 う。 ○全体に対して指導する必要があると考 えられる場合には一旦話し合いを止め させ、必要な内容を確認する。
まとめ 10分	4 決まった発表方法を全体発表する。 ●司会の人、話し合っただけ決まった内容と方法を 発表してください。 ・わたしたち「2組暴れ獅子太鼓」グループは、 ～を～で、～を～で発表することに決ましまし た。 5 今日の学習をふり返る ●今日の話し合いをふり返りましょう。 ・ぼくは、司会者の役割の中で、「ここまでに 出た意見を整理する」ことを意識して進行が できました。 ・Dさんの発表の仕方がよかったです。みんなの 考えと同じなのか違うのかをはっきりさせ て発表していたからです。 ●きょう決まった内容にしたがって、発表メモや資 料を作っていきます。	○話し合いが途中だったグループは、決 まったところまでの報告をさせる。 <話すこと・聞くこと> □「司会者」「参加者」の役割を考えなが ら、友だちの考えとの共通点・相違点 を意識し、進行に沿って話し合ってい る。（発表・話し合い・自己評価） ○次時の活動を確認し、意欲づけを図る。

【上手に話し合うためのびき】 3年バージョン

司会グループ (司会、ていあん者、黒板書記、ノート書記)		さんか者	
話し合いを進めるためのわざ	まとめるためのわざ	話すためのわざ	聞くためのわざ
□前もって司会グループで (先生と) 打ち合わせをしておく。 【話し合いのはじめに】 ・はじめに、何について話し合うか (ぎだい)、どんな順じよで話し合うかをたしかめる。 「これから〇〇〇〇について話し合います。」 「まず〇〇〇〇を決めます。その後、◇◇を決めます。」 ・原あんがあるときは、はじめにていあんしてもらおう。 「〇〇さん、ていあんをお願いします。」 【話し合いの中で】 □みんなが意見を言えるように指名したり、順番を決めたりする。 「〇〇さんから順番に意見を言うてください。」 □とちゅうで、これまでにでてきた意見をせいいりする。 「みんなから意見が出たので、ちよっとせいいります。」 〇〇さんからは◇◇という意見が出ました。」 「ここまで話し合って、大きくわけると△△の意見が出ました。」 「◇◇ということですね。」 □ぎだいいからそれだ意見が出たら、元にもどす。 「今は、〇〇〇〇について発言してください。」 □じょうけんをもう一度かくにんし、じょうけんにあった内ようで考えてもらう。 「もち時間は△分です。この中でできることを考えてください。」 □さんせいや反対だけでなく、どこにさんせい (反対) なのか、なぜさんせい (反対) なのかを公表してもらう。 <意見がなかなか出ないときは> □自分の考えをせいいりする時間をとる。 □友だちとそうだんする時間をとる。⇒代表に発表してもらおう 「△分間考えて、ノートに書いてください。」 「近く (班) の人と△分間そうだんしてください。」 【話し合いのまとめで】 □意見が出つくしたところどころでどんな意見が出たかせいりをし、さんか者にたしかめる。かんたんに多数決で決めようとしなない。 「話し合いのけっか、〇〇〇〇ということが決まりました。」 「◇◇ということでもいいですか。」 「これで話し合いを終わります。(先生、おねがいます。)」	□前もって打ち合わせをしておく。 □あらかじめぎだいを書いておく。 □原あんがあるときは、それも書いておく。 □同じような意見はまとめて書く。 (出された意見をぜんぶ書くひつようはない) □さんせい意見、反対意見に分けて書く。 □ポイントをおさえ、なるべくみじかい言葉で書く。 □けつろんが出たら、分かりやすくまとめて、なるべく目立つようにする。	【ぎだいにそって話すには】 □司会にしめいされてから話す。 □自分の考えを先に言う。 「ぼくの考えは〇〇です。」 「わたしは〇〇にさんせい (反対) です。」 □考えた理由を言う。 「わけは…」 「どうしてかという…」 「理由は…」 ◇◇だからです。」 □自分の立場をはつきりさせる。 「〇〇さんの意見にさんせい反対つけ足し です。」 【自分の考えを分かりやすく伝えるには】 □さいごまでとはつきり話す。 □声の大きさは、やさしいしきする。 □じゅんじよを表す言葉を使って話す。 「まず・はじめに・次に・さいごに…」 □相手にたしかめながら話す。 「…ですよね・ここまでいいですか」 □れいをあげて話す。 「たとえば…」 □まとめる言葉を使って話す。 「まとめると・つまり・だから・かんたんに言う・分かりやすく言う…」 【よりよいまとめにするためには】 □他の人の意見を取り入れて、よりよいあを考えて発表する。 「それなら、〇〇〇〇でどうですか。」 「〇〇さんと◇◇さんの意見を合わせて…」	□話す人をよく見て聞く (おへそチャンネルを合わせる) □話を最後まで聞く (とちゅうで口をはさまない) □分かったときは、うなずいたり、あいづちをうったりしながら聞く。 (クラスのをやくそくではく手などをする。) □分らないところがないようにちゅういして聞く。 ⇒分らないところは、後でかならずしつもんする。 □自分の考えとくらべながら聞く。 「さんせい」 「反対」 「一部にさんせい」 「一部に反対」 □とくに大事なことは、メモをとったりしながら聞く。 □つねに自分の考えを發表するつもり (自分なりのように言うか考えながら) 聞く。

第1学年2組 国語科学習指導案

平成26年9月3日(水)

男子12名 女子13名 計25名
飯豊町立飯豊中学校 佐藤 明子

1 単元名

「星の花が降るころに」作品のよさを語り合おう

※ 本指導案は、

甲斐利恵子教諭(東京都港区赤坂中学校教諭)の実践「作品のよさを語り合おう」
を参考にさせていただき、作成したものです。光村図書発行「国語教室相談室」69号に掲載

2 単元目標

- (1) 場面の展開や登場人物の描写に注意して読み、作品のよさをとらえようとする。
(関心・意欲・態度)
- (2) 場面の展開や登場人物などの描写に注意して読み、「ストーリー展開」「人物設定」「情景描写」「主題」「心情の変化」「表現」「結末」の視点から作品のよさを読み、内容の理解に役立てることができる。
(読むこと)
- (3) 語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して読むことができる。
(伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項)

3 教材について

中学1年生が主人公であり、感情移入しやすい作品である。初発の感想でも、人間関係や主人公の心情に思いを寄せる生徒が多い。しかし、この作品は、それをどう描いているかという客観的な視点に立たせることで、より理解が深まると考えた。情景描写や心情の変化、人物描写などを客観的に読む力は、これから出会う文学作品を深く読解していくために欠かせないものであると考え、本単元を仕組んだ。

4 生徒について

1学期に「にじの見える橋」を学習したが、登場人物の気持ちに自分を重ね合わせて読む生徒が多かった。登場人物の気持ちをストレートに表す言葉には着目できるが、「情景描写」が心情を表すことに気づいていた生徒は、クラスで数名だった。

5 指導にあたって

《学習指導要領との関連》

「C 読むこと」

ウ 場面の展開や登場人物の描写などに注意して読み、内容の理解に役立てること。

エ 文章の構成や展開、表現の特徴について、自分の考えを持つこと。

《言語活動例》

詩歌や物語などを読み、内容や表現の仕方について感想を交流すること

(中学2年)

《単元を貫く言語活動》

(1) つけたい力に応じた言語活動の設定 「作品のよさを語り合う」活動

○ 本教材でつけたい力

- ・ 作品のよさを、「情景描写、人物設定、心情表現、ストーリー展開、主題」などの視点から発見する力
- ・ 作品のよさを、提示された言葉を使って二百字程度で表現し、伝える力

○ 本言語活動の特徴

生徒は、感情移入がしやすいこの作品が好きである。しかし、その「好き」な気持ちを具体的に説明する力は身につけていない。生徒の「好き」を出発点にして活動を仕組むことで、作品の「よさ」を発見する意欲につながると考えた。よさを伝えるには、そのための観点や言葉が必要である。ここに、必然的に学びが成立する。「作品のよさを語り合う」活動は、各自が感じた作品のよさを、「なんとか伝えたい」という強い思いに支えられて、描写を読む力を知らず知らずのうちに育むことができると思った。

6 単元の指導と評価の計画

時間	学習活動	【評価の観点】評価規準（評価方法）
1	①学習の流れを知る ②作品のよさを述べるための言葉を知る。 「よさを述べるための言葉」 ・情景描写 ・人物設定 ・心情の変化 ・表現 ・結末 ・主題 ・ストーリー展開 ③範読を聞く。聞きながらチェックする。メモを取る ④作品のよさを簡単に付箋に書く。	【関心】 「作品のよさを述べるための言葉」を手がかりにして、作品のよさを見つけ、付箋に書こうとしている。 （付箋に書いている様子や内容）
2 本時	①各自、付箋に書いた作品のよさを、黒板にはる。 ②なぜその観点を選んだのかを、具体的に一人ひとり説明する。 ③友達の発表について、質問や共感を述べる。 ④作品のよさを200字の文章にまとめる。 （下書き）	【読む】 自分が見つけた作品のよさを友達にわかるように、具体的な描写や叙述をもとに説明している。友達の考えを聞いて、よさを読み取っている。 （発言した内容）
3	①班で、下書きをもとに具体的な叙述や描写を取り上げて、作品のよさを語り合う。 ②深い読み取りをしている友達の説明を聞く。 ③作品のよさを200字の文章にまとめる。 （友達の発見したことをいいてよい）	【読む】 「人物設定」「情景描写」「ストーリー展開」「心情の変化」「主題」などの視点から、作品のよさをとらえ、描写や叙述に着目して作品を読んでいる。 （書いた文章の内容と言葉）
4	①「作品のよさを語る」『星の花が降るころに』を読み合う。 ②読んでコメントを書く	【読む】 具体的な表現を取り上げてコメントを書いている。 （コメントの内容）
5	①コメントを読み合う ②学習の振り返り	【関心】 コメントを読み合って、学習の振り返りをしている。 （コメントを読み合っている様子）

7 本時の指導

(1) 目標

作品のよさを述べる言葉、「ストーリー展開」「人物設定」「情景描写」「主題」「心情の変化」「結末」などを適切に使って、自分が見つけた作品のよさを、具体的な描写や叙述を取り上げて説明することができる。

(2) 指導過程

段階	学習活動、[○]主な発問、[・]期待する反応	[・]指導上の留意点、[☆]評価（方法）
導入 (5分)	1 本時のめあてをつかむ ○ 大好きな作品を紹介するとき、「全部すばらしい」では、そのよさが伝わらない。よさを語るための言葉がありましたね。 ・情景描写 ・人物設定 ・心情の変化 ・結末 ・表現 ・ストーリー展開 よさを述べるための言葉を使って、『星の花が降るころに』のよさを説明しよう。	・前時の手引きを見ながら確認する。
展開 (40分)	2 自分が書いた付箋について、「なぜその観点を選んだのか」説明する。 ○ 「人物設定」を選んだ人どうぞ。 ・「戸部君」「掃除のおばさん」大切なことを教えてくれた。この物語に欠かせない人物。 ○ 「表現」を選んだ人どうぞ。 ・「音のないこま送りの映像」ショックをうけたという感情。まるでドラマの一つのシーンのよう。 ・わたしが動揺している様子が伝わる。 ○ 「心情の変化」を選んだ人どうぞ。 ・銀木犀の木と主人公「わたし」を重ねている。葉っぱが古い葉から新しい葉に変わり、「わたし」も今の「わたし」から新しい「わたし」に変わろうとしている。 3 作品のよさを、200字の文章にまとめる。(下書き) 友達の発見も入れて良い。 ○ 感想文ではありません。「僕(私)は～」で始めない。「すごい」を使わない。「思った」を文末に使わないで書こう。	・全員、教科書と筆記用具を持って黒板の前に出てきて、半円形になって椅子に座らせる。 ・観点ごとに並べてはった付箋を見ながら、徐々に深まっていくように指名の順番を考え、生徒全員にたずねる。 ・発言の際、教科書何ページの何行目かを言わせる。根拠となる表現に線や書き込みをさせる。是非つかませたい描写や叙述は、声を出して一斉読する。 ☆なぜその観点を選んだのか、その根拠を、教科書の具体的な記述を取り上げて説明している。 (説明のようす、言葉) ☆友達の発見したよさを聞いて、教科書にメモしている。 (メモのようす、書き込み) ☆作品のよさを、提示された言葉を使って200字程度で書いている。 (ワークシート)
終末 (5分)	4 次時の学習の確認をする。 ○ 次の時間は、今書いた下書きをもとに、作品のよさを語り合い、さらに深めてから清書をしましょう。	・選んだ観点について、具体的な記述を取り上げて、よさを説明している文章を紹介し、次時につなげる。

星の花が降るころに

作品のよさを語る

生徒作品

『星の花が降るころに』という作品は、人物設定に魅力がある。
最初は、銀木屋に閉じ込められて、夏実と一緒に守られていた。しかし、すれ違いが重なるうちに、「わたし」と夏実は仲が悪くなってしまった。戸部君の存在がきっかけで少しずつ前に進んで行く。最終的に「銀木屋からくぐって出た」という行動は、「わたし」の人物像をうまく表現している。戸部君も素敵な男の子として描かれ、魅力的である。

『星の花が降るころに』という作品は、人物設定が素晴らしい。
まずは、主人公の「わたし」である。名前がないことで、謎が深まり、どんな性格なのかを自分で想像できる。
さらに、戸部君や掃除をしているおばさん。「わたし」に大切なことを教えてくれ、「わたし」の気持ちを変える大切な役割をしている。この二人も、物語に欠かせない人物である。

『星の花が降るころに』という作品は、表現が素晴らしい。
「音のないこま送りの映像を見ているように長く感じられた」から、「わたし」が強いショックを受けたことが伝わる。まるでドラマの一シーンを見ているようだ。もし、自分が「わたし」だったら、本当にそうなるのではないかと想像できる。たくさん現実性のある表現方法で、「わたし」がどう感じているのかがよくわかる作品である。

『星の花が降るころに』という作品は表現が魅力的である。
中学生になって初めてすっかり戸部君と向き合った「わたし」の様子を、「涙がにじんできたのはあんまり笑いすぎたせいだ、たぶん。」と表現していて、本当なのか、半信半疑な様子が伝わる。
この表現により、自分でも自分の本当の気持ちが見つけられない「わたし」の心情がわかる。大きなキーワードである。

